

## 埼玉県八潮市の道路陥没について

2025年1月28日に八潮市で発生した大規模な道路陥没は、道路および下水道管理者にとって盲点ともいえる不運な事案といえる。下水管起因の道路陥没は、管渠の老朽化等による破損部を通して上方の土が管の中へ吸い出され、その結果すり鉢状の空洞が形成、それが成長した結果、空洞天井部の土が耐え切れなくなって路面陥没となる。このような道路陥没は国土交通省の統計によると国内で毎年3000件弱発生しているが、ほとんどは規模が小さく、地中レーダを利用した空洞探査で陥没に至る前に空洞を見つけて補修することで対策としている。

しかし、八潮のケースでは、起因となった下水管が地下10mと深かったため、破損部からの土砂流出が継続的（あるいは断続的）に起こった結果、地表に変状が現れないまま（通常地表に変状が現れるのは陥没直前）空洞が大きなサイズに成長し陥没に至ったと考えられる。現在空洞探査の唯一の方法である地中レーダは探査深度が2m程度に限られる。一方下水管内への土砂吸出しは、軽微な損傷や損傷と認識されないような漏水箇所でも起こりうるため、管内からのカメラ調査による管周辺の空洞化の探知にも限界がある。本ケースは地表からも管内からも見つけるのが困難な深さの空洞によって引き起こされたと思われる。

桑野玲子